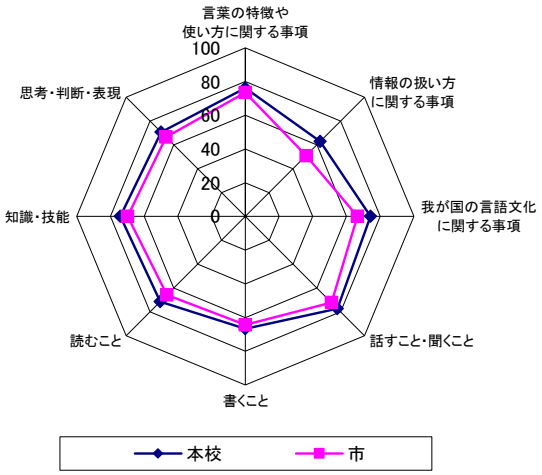
宇都宮市立陽東小学校 第６学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.2	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	62.9	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	74.2	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	77.3	72.3	73.7
	書くこと	66.7	64.3	66.6
	読むこと	71.5	65.8	64.9
観点別	知識・技能	74.1	69.8	70.8
	思考・判断・表現	70.7	66.5	67.3

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

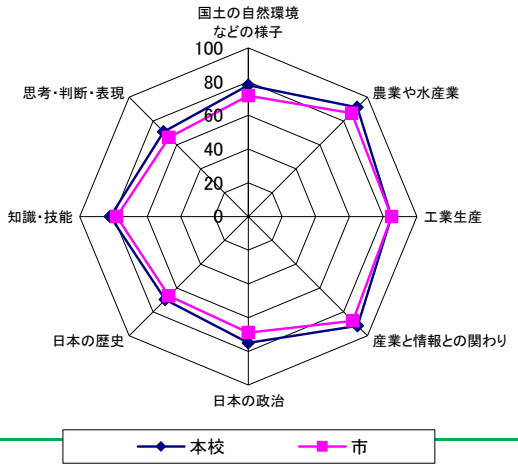
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○領域の平均正答率は，市と同程度である。 ○漢字を読んだり，文脈に沿った意味の漢字を適切に選択したりする問題では，ほとんどの問題で正答率が9割を上回り，意味を考えて漢字を使用できていることがうかがえる。 ●敬語について理解し，使用する問題の正答率は19.7%であり，市の平均正答率よりも2ポイント以上低い。尊敬語と謙譲語の理解が不足していると考えられる。	・漢字や熟語については，引き続きプリントやドリルなどを用いた繰り返しの学習を行うとともに，文章の中で適切な漢字を使えるように習熟を図る。 ・定期的に敬語の使い方を復習する機会をつくるとともに，日常生活の中でも敬語を意識できるよう声掛けをしていく。
情報の扱い方に関する事項	○領域の平均正答率は，市の平均正答率よりも11.9ポイント高い。 ○説明文の構成をよく理解し，書かれていることの関係から，要点を読み取ったり，自分の言葉でまとめたりするなど，情報を整理することができている。 ●正答率自体は60%台であり，まとめきれていない児童も多くいる。	・複数の情報の関係を理解し，目的に応じた文章を書く力を伸ばすために，文章を読んで要約したり，キーワードを抜き出したりと，的確に話題を捉えて表現する活動を取り入れていく。 ・国語以外の教科においても，資料から分かることを書き出したり，文章の情報を整理してまとめたりする活動を取り入れて指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○領域の平均正答率は，市の平均正答率よりも7.7ポイント高い。 ○語句を和語，漢語，外来語に分ける問題では，語句の由来や特徴に関心をもって，正しく理解できている児童が多いことが分かる。	・和語・漢語・外来語への理解を深め，言語文化への興味・関心が高まるよう，古文や漢文等様々な文章に触れる機会をもてるようにする。
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は，市の平均正答率よりも5.3ポイント高い。 ○相手の話を聞き，その内容を捉える問題の正答率は97%であり，特によくできている。しっかりと内容を考えながら聞く姿勢が身に付いていると思われる。 ●聞いた内容を自分の言葉に置き換えて報告する問題の正答率は53%であり，意図に応じて話をすることには課題が見られる。	・引き続きICT機器やホワイトボード等を用いた意見交換の場を積極的に設ける。また，自分の立場を明確にしたり，友達の意見を聞いて自分の考えを発表したりするような活動や討論会等を充実させる。
書くこと	○領域の平均正答率は，市の平均正答率と同程度である。 ○文章の書かれ方の工夫を選択する問題の正答率は83.3%であり，文章構成の知識があることが分かる。 ●自分の主張を複数の条件に合わせて書く問題の正答率は市の正答率よりも4ポイント程度低い。特に予想される反論に対する自分の考えを具体的に書く問題の正答率は45.5%であり，説得力をもたせるような内容を盛り込んで書くことは，練習が必要だと思われる。	・総合的な学習の時間・社会科などでの調べ学習で，集めた情報を整理して目的にあった文章を書いたり，話合い活動で相手の意見をきちんと受け止めた上で自分の考えを再構築したりするなど，教科横断的な取組を通して，「考えて書く」力を更に高めていく。
読むこと	○領域の平均正答率は，市の平均正答率よりも5.7ポイント高い。 ○登場人物の心情や説明文の内容を捉える問題の正答率は，市の平均正答率よりも5～7ポイント高く，描写や叙述に目を向けて考えることができていると思われる。 ●文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題の正答率は45.5%であり，高いとは言えない。	・物語文では，文章をよく読み，叙述をもとにした読み取りを継続して指導していく。 ・国語の時間以外にも，グループや全体で意見や感想を共有し，自分の考えを広げることができる場を積極的に設けるようにする。

宇都宮市立陽東小学校 第６学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	77.9	71.6	69.6
	農業や水産業	91.4	86.7	83.7
	工業生産	84.8	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	91.7	87.7	77.4
	日本の政治	75.0	68.9	71.7
	日本の歴史	69.7	66.7	66.3
観点別	知識・技能	81.8	78.0	76.7
	思考・判断・表現	71.0	66.4	63.1



※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

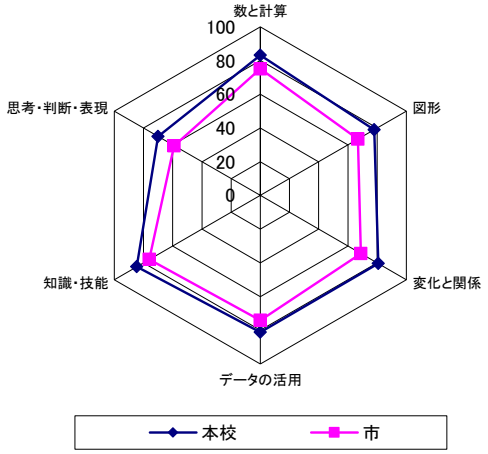
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○領域全体では,市の正答率を6.3ポイント上回っている。特に，オーストラリアの位置と国旗を答える問題は，正答率が86.8%と高かった。 ●日本の周辺の海洋名を答える問題では，市の平均を5.5ポイント下回っているものの，正答率は81.8%だった。	・従来の地球儀や地図帳に加えて，一人一台端末を使って，インターネットの地図サイトを活用していく。 ・地形や地名に関して得 た知識と現地の様子(デジタル)をつなげることで，国土や自然環境に関する理解を深めさせる。 ・地図をノートに大まかにまとめることで，大体の位置関係を掴めるような授業を展開する。
農業や水産業	○領域全体では,市の正答率を4.7ポイント上回っている。どの問題も高い正答率であるが，特に米の生産が盛んな地域を問う問題の正答率は92.4%であった。 ○水産物の流通の工夫について資料を読み取る問題では，正答率が93.9%と高かった。	・農業や水産業と自分たちのくらしとの結び付きが分かる写真や映像を重視してきたので，今後も活用していく。 ・表の読み取りに時間をかけ，表から何が分かるかを考える授業を展開する。 ・地域の気候と産業の特色を結び付けた調べ学習を進めてきた成果だと考えられるので，今後も続けていく。
工業生産	○領域全体では，市の正答率とほぼ同程度である。 ○日本の工業の特色について資料をもとに記述する問題では正答率が75.8%であり，市の平均をやや上回った。 ●自動車の製造工程を答える問題の正答率は87.9%と高かったが，市の正答率を1.4ポイント下回っている。	・社会科的な視点,考え方を育てられるように，資料を読み取る際に，ポイントとなる重要語句を丁寧に説明する。 ・複数の資料を見比べて，理由を考える機会を増やしたり，話し合ったことから自分の考えを書く活動を設定したりしていきたい。
産業と情報との関わり	○領域全体では,,市の正答率を4.0ポイント上回っている。私たちの生活と情報や自然環境との関わりについて，よく理解していると言える。 ●国内の林業が抱える課題について理解しているかを問う問題の正答率は，48.5%であった。市の平均を13.3ポイント上回っているものの，本校では選択式問題の中で，正答率が一番低かった。	・情報を生かす産業について,身のまわりの生活から事例を取り上げるようにする。また，インタビューなどをもとに自分の考えを深めさせる。 ・普段の授業で，重要語句を説明する時間を設け，丁寧に指導していく。 ・社会の事実について，一つ一つの出来事がどのような結果に結び付いているのかを考える授業を展開していく。
日本の政治	○領域全体では，市の正答率を6.1ポイント上回っている。特に，国民の義務についての理解度が高い。 ●国民と国会と内閣の関係について理解する問題では正答率は77.3%であったが，市の正答率を5.3ポイント下回っている。	・自分たちの生活の中で，憲法と関わる場面について考え，教科書の内容と結び付けながら，授業の振り返りをするような場面を設定していきたい。 ・新聞やニュースなどから政治に関する話題を学級内で取り上げることで，さらに政治への関心を高めていきたい。
日本の歴史	○領域全体で，市の正答率を3.0ポイント上回っている。特に,縄文時代や安土 桃山時代の問題の正答率が高い。 ●鎌倉時代の元寇をきっかけに防塁をつくったことを記述する問題の正答率が18.2%であった。市の正答率 を10.3ポイント下回っている。	・今後も，社会科校外学習や修学旅行等を通して，歴史に対して様々な方法で触れさせていきたい。 ・地域に残る文化財をはじめ，歴史の舞台になった場所は，地図で場所を確認しながら理解を深めていく。 ・史跡や写真資料をもとに学習に取り組む際に，知識として覚えるだけでなく，時代を整理しつつ，歴史的価値や因果関係をつなげて考えられるような学習を展開する。

宇都宮市立陽東小学校 第６学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.2	75.1	75.8
	図形	78.0	66.8	68.3
	変化と関係	80.8	68.8	65.0
	データの活用	81.2	74.1	63.6
観点別	知識・技能	84.6	76.1	75.8
	思考・判断・表現	70.1	59.0	51.7

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

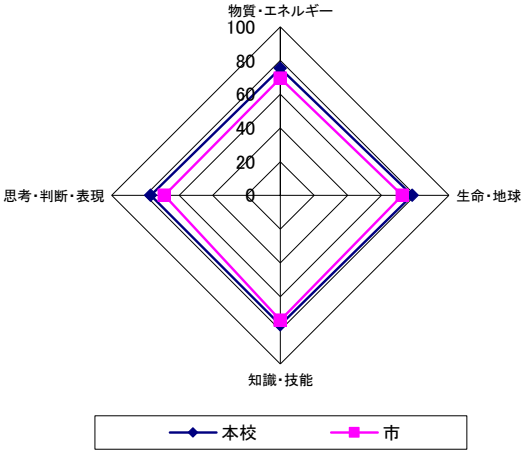
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域全体では，市の正答率を8.1ポイント上回っている。特に小数の計算で純小数同士の乗法の計算をする問題の正答率は，市の正答率を23.3ポイント上回っている。 ●分数の乗法の正答率は，市の正答率を0.4ポイント下回っていた。また，図を見て小数倍の文章問題を解くために除法の立式をする問題では，市の平均は上回ったが，正答率は77.3%であった。	・小数や分数などの基本的な計算について，授業や家庭学習等で反復学習に取り組んできたが，約分忘れなどのケアレスミスが散見されるので，解き直しを習慣化させて，基礎・基本の定着を図る。 ・立式をする問題に対する苦手意識をなくすために，具体的な場面を想定した問題や図を用いた説明などを通して，その良さを感じられるようにする。
図形	○領域全体では，市の正答率を11.2ポイント上回っている。特に線対称について理解し，示された方法で図形を作ることができるか説明する問題の正答率は，市の正答率を17.5ポイント上回っている。 ●高さが図形の外にある三角形の面積を求める問題や線対称と点対称について理解し，どちらも該当している図形を選ぶ問題の正答率は，市の正答率を上回っていたが，正答率がどちらも54.5%であった。	・授業内で公式の証明だけでなく，多様な見方・考え方による立式やその説明を口頭で行う機会を設けてきた成果が記述問題に対する正答率の向上につながったと考えられるので，今後も継続していく。 ・図形問題に苦手意識をもつ児童のために，自分で図が描けるように指導し，図形感覚を磨いたり，具体物を活用したりすることで苦手意識の軽減を図っていく。
変化と関係	○領域全体では，市の正答率を12.0ポイント上回っている。特に速さと道のりから時間を求める問題の正答率は，市の正答率を14.6ポイント上回っている。 ●基準量と比較量から割合を求める問題の正答率は，市の正答率を14.4ポイント上回っていたが，正答率は68.2%であった。	・単位量あたりの大きさ・速さの学習については，人口密度の問題や速さの問題において，単に計算するだけではなく，「それはつまりどのくらい混んでいるのか，速いのか」などと言語化を促すことで，力の定着につながったと考えられるので，今後も継続していく。 ・割合に対する苦手意識がある児童が多いので，言葉の意味を理解させながら，日常生活と関連付けたり，図やグラフで視覚的に捉えさせたりすることで補強する。
データの活用	○領域全体では，市の正答率を7.0ポイント上回っている。特に走る距離と歩幅の平均からある距離を走るときにおよそ何歩かかるか求める問題の正答率は，市の正答率を15.1ポイント上回っている。 ●問題の場面を理解し，4日間に走った道のりの平均から2週間に走ると考えられる道のりを答える記述問題の正答率は，市の正答率を14.5ポイント上回っていたが，正答率が56.1%であった。	・代表値それぞれの特性の理解度は高いが，それらを利用して考えることがうまくできない児童が多いので，具体的な場面を設定し、どの代表値を使うことが適切なのか，その理由や根拠を考え，説明する力を身に付けさせていく。 ・データの読み取りや活用は日常生活や他教科などでも行う機会が多いので，様々な場面で身に付けた知識を想起させるとともに，根拠をもって口頭で説明させる機会を設けていく。

宇都宮市立陽東小学校 第６学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	75.4	69.5	65.2
	生命・地球	78.2	72.3	70.1
観点別	知識・技能	76.8	74.0	70.7
	思考・判断・表現	76.9	68.7	65.5

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○市の正答率を5.9ポイント上回っている。 ○もののとけ方の内容では，10～15ポイント程度市の平均を上回り，特に記述式の問題では15.5ポイント市の平均を上回っていた。 ●ふりこのきまりに関する問題では，市の平均をおよそ6ポイント下回っており，正答率が65.2%にとどまっている。	・実験を通して体験的に学習していくことを大切にしながら，今後も実体験を重視した授業を充実させていく。 ・自分の考えや学習のまとめを自分の言葉で書く経験を大切にしてきたので，今後も指導を続けていきたい。
生命・地球	○市の正答率を5.9ポイント上回っている。 ○植物のつくりとはたらきの内容では，全体的に市の平均を上回り，記述式の問題においては市の平均を14.2ポイント上回る正答率であった。 ●動物のからだのつくりとはたらきに関する問題では，市の平均と比べて，およそ10ポイント正答率が下がっているものがあった。	・実物を提示したり，模型を用いて実験をしたりすることで，体験的に学習することができるようにする。 ・筋道を立てて考え，自分の言葉で説明させる経験を今後も積み重ねていきたい。

宇都宮市立陽東小学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・ペア学習やグループ学習を中心とした学び合い	・様々な授業の中で，ペア学習やグループ学習での学び合いの場を意図的に設定する。	・6年生では「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」についての肯定割合は83.8%で，市の平均よりも3.8ポイント高かったが，「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」についての肯定割合が67.6%で市の平均を若干下回った。
・学ぶことを楽しむ児童の育成	・授業において体験的な学習を多く取り入れたり，振り返りの仕方を工夫したりすることで，自己の学びを実感することができるようにする。	・「勉強が好きですか」についての肯定割合は，6年生で市の平均を7.9ポイント下回ったが，1～5年生では市の平均を1～7ポイント上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・6年生では全教科において，ほぼすべての領域および観点で市の平均や参考値を上回っている。今後も基礎・基本を大切にしながら，発展的な課題にも取り組み，知識を活用できる力を伸ばしていきたい。
・本校では特に記述式設問の正答率が市の平均と比べて高い。どの教科においても，授業の中で自分の言葉で考えをまとめる活動を取り入れてきた成果だと考えられる。また，一人一台端末を利用することで，自分の意見を表現したり推敲したりすることが容易になったことも関係していると思われる。次年度も自分の言葉で表現する活動を効果的に取り入れ，児童の学びを深めるためのツールとして，一人一台端末を活用していきたい。